

1 親鸞聖人の信の表明

《依経段》

1 帰命無量寿如来
2 南無不可思議光

2 阿弥陀仏の願いと救い

本願のおこり

どのようにして仏になられたか

3 法蔵菩薩因位時
4 在世自在王仏所
5 観見諸仏浄土因
6 国土人天之善悪
7 建立無上殊勝願
8 超発希有大弘誓
9 五劫思惟之摂受
10 重誓名声聞十方

光明と名号

どのようにして私を救うのか

☆光明による救い（十二光）

11 普放無量無辺光
12 無礙無对光炎王
13 清浄歓喜智慧光
14 不断難思無称光
15 超日月光照塵刹
16 一切群生蒙光照
17 本願名号正定業
18 至心信樂願為因
19 成等覚証大涅槃
20 必至滅度願成就

☆名号による救い

3 釈尊の教え

出世本懐

お釈迦さまをはじめとするすべての仏さまが世に出られる目的は、阿弥陀さまの教えを私たちに勧めるためであった。

信の利益

不断得証の利益

平等一味の利益

25 能発一念喜愛心
26 不断煩惱得涅槃
27 凡聖逆谤齐回入
28 如衆水入海一味

【現代語訳】

限りない命の如来に帰命し、思いはかることのできない光の如来に帰依したてまつる。

法蔵菩薩の因位の上に、世自在王仏のみもとで、

仏がたの浄土の成り立ちや、

その国土や人間や神々の善し悪しをご覧になって、

この上なくすぐれた願をおたてになり、

世にもまれな大いなる誓いをおこされた。

五劫もの長い間、思惟してこの誓願を選び取り、

名号をすべての世界に聞えさせようと重ねて誓われたのである。

本願を成就された仏は、無量光・無辺光・

無礙光・無对光・炎王光・

清浄光・歓喜光・智慧光・

不断光・難思光・無称光・

超日月光とたたえられる光明を放って、広くすべての国々を照らし、

すべての衆生はその光明に照らされる。

本願成就の名号は衆生が間違ひなく往生するための行であり、

至心信樂の願（第十八願）に誓われている信を往生の正因とする。

正定聚の位につき、浄土に往生してさとりを開くことができるのは、

必至滅度の願（第十一願）が成就されたことによる。

如来が世に出られるのは、

ただ阿弥陀仏の本願一乗海の教えを説くためである。

五濁の世の人々は、

釈尊のまことの教えを信じるがよい。

信をおこして、阿弥陀仏の救いを喜ぶ人は、

自ら煩惱を断ち切らないまま、浄土でさとりを得ることが出来る。

凡夫も聖者も、五逆のものも謗法のものも、みな本願海に入れば、

どの川の水も海に入ると一つの味になるように、等しく救われる。

心光摂護の利益

横超五趣の利益

諸仏称讃の利益

自力の誠め

4 教えの伝承

インド・中国・日本に、阿弥陀さまのみ教えを、正しくお伝えになった七人の高僧方がいらっしやる。

5 七高僧の教え

龍樹菩薩

仏のさとりを開く道には、険しい陸路をたどるような道（難行道）と、水路を大船に乗って安らかに目的地へいくような道（易行道）がある。

阿弥陀さまの本願を信じれば、必ず仏のさとりを開くことができる身に定まる。ただつねに阿弥陀さまの名号を称えて、ご恩に報いるがよい。

29	撰取心光常照護	30	已能破無明闇	31	貪愛瞋憎之雲霧	32	常覆真実信心天	33	譬如日光覆雲霧	34	雲霧之下明無闇	35	獲信見敬大慶喜	36	即横超截五惡趣	37	一切善惡凡夫人	38	聞信如來弘誓願	39	仏言広大勝解者	40	是人名分陀利華	41	弥陀仏本願念仏	42	邪見憍慢惡衆生	43	信樂受持甚以難	44	難中之難無過斯
45	印度西域之高僧	46	中夏日域之高僧	47	顕大聖興世正意	48	明如來本誓応機	49	釈迦如來楞伽山	50	為衆告命南天竺	51	龍樹大士出於世	52	悉能摧破有無見	53	宣說大乘無上法	54	証歎喜地生安樂	55	顕示難行陸路苦	56	信樂易行水道樂	57	憶念弥陀仏本願	58	自然即時入必定	59	唯能常称如來号	60	応報大悲弘誓恩

《依釈段》

阿弥陀仏の光明はいつも衆生を摂め取ってお護りくださる。すでに無明の闇ははれても、貪りや怒りの雲や霧は、

いつもまことの信心の空をおおっている。

しかし、たとえば日光が雲や霧にさえぎられても、

その下は明るくて闇がないのと同じである。

信を得て大いによろこび敬う人は、

ただちに本願力によつて迷いの世界のきずなが断ち切られる。

善人も悪人も、どのような凡夫であっても、

阿弥陀仏の本願を信じれば、

仏はこの人をすぐれた智慧を得たものであるとたたえ、

汚れない白い蓮の花のような人とおほめになる。

阿弥陀仏の本願念仏の法は、

よこしまな考えを持ち、おごり高ぶる自力のものが、

信じることは実に難しい。

難の中の難であり、これ以上に難しいことはない。

インドの菩薩方や

中国と日本の高僧方が、

釈尊が世に出られた本意をあらわし、

阿弥陀仏の本願はわたしたちのためにたてられたことを明らかにされた。

釈尊は楞伽山で

大衆に、「南インドに

龍樹菩薩が現れて、

有無の邪見をすべて打ち破り、

尊い大乘の法を説き、

歎喜地の位に至つて、阿弥陀仏の浄土に往生するだろう」と仰せになった。

龍樹菩薩は、難行道は苦しい陸路のようであると示し、

易行道は楽しい船旅のようであると勧めになる。

「阿弥陀仏の本願を信じれば、

おのずからただちに正定聚に入る。

ただ常に阿弥陀仏の名号を称え、

本願の大いなる慈悲の恩に報いるがよい」と述べられた。

天親菩薩

天親菩薩は、本願力のはたらきによつて、あらゆるものが救われることを知らせるために、それを受け入れる一心が往生の因であるとあらわされた。

浄土に生まれればただちにさとりを開き、迷いの世界に還りきて、おもうがままに人々を救う。

曇鸞大師

わたしたちが浄土に生まれていくこと(往相)も、浄土から還つて人びとを救うこと(還相)も、すべて本願力のはたらきによる。

浄土に往生する因は、本願を疑いなく受け入れる信心ただひとつである。

道綽禪師

自力の修行によつてこの世でさとののは不可能であり、浄土門の教えこそが、さとりを開く唯一の道である。

たとえ一生涯、悪を造り続けたものであつても、本願を信じて念仏すれば、浄土に往生し、さとりを開くことができる

92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
至安養界証妙果	一生造悪値弘誓	像末法滅同悲引	三不三信誨慇懃	円満徳号勸専称	万善自力貶勤修	唯明浄土可通入	道綽決聖道難証	諸有衆生皆普化	必至無量光明土	証知生即涅槃	惑染凡夫信心発	正定之因唯信心	往還回向由他力	報土因果顕誓願	天親菩薩論註解	焚燒仙經帰樂邦	三蔵流支授浄教	常向鸞処菩薩礼	本師曇鸞梁天子	入生死園示応化	遊煩惱林現神通	即証真如法性身	得至蓮華蔵世界	必獲入大会衆数	帰入功德大宝海	為度群生彰一心	広由本願力回向	光闡横超大誓願	依修多羅顕真実	帰命無礙光如来	天親菩薩造論説

天親菩薩は、『浄土論』を著して、

「無礙光如来に帰依したてまつる」と述べられた。

浄土の經典にもとづいて阿弥陀仏のまことをあらわされ、

横超のすぐれた誓願を広くお示しになり、

本願力の回向によつて

すべてのものを救うために、一心すなわち他力の信心の徳を明らかにされた。

「本願の名号に帰し、大いなる功德の海に入れば、

浄土に往生する身と定まる。

阿弥陀仏の浄土に往生すれば、

ただちに真如をさとつた身となり、

さらに迷いの世界に還り、神通力をあらわして自在に衆生を救うことができる」と述べられた。

曇鸞大師は、梁の武帝が

常に菩薩と仰がれた方である。

菩提流支三蔵から浄土の經典を授けられたので、

仙經を焼き捨てて浄土の教えに帰依された。

天親菩薩の『浄土論』を註釈して、

浄土に往生する因も果も阿弥陀仏の誓願によることを明らかにし、

往相も還相も他力の回向であると示された。

「浄土へ往生するための因は、ただ信心一つである。

煩惱具足の凡夫でもこの信心を得たなら、

仏のさとりを開くことができる。

はかり知れない光明の浄土に至ると、

あらゆる迷いの衆生を導くことができる」と述べられた。

道綽禪師は、聖道門の教えによつてさとののは難しく、

浄土門の教えによつてのみさとりに至ることができることを明らかにされた。

自力の行はいくら修めても劣っていると、

ひとすじにあらゆる功德をそなえた名号を称えることをお勧めになる。

三信と三不信の教えを懇切に示し、

正法・像法・末法・法滅、いつの時代においても、本願念仏の法は変らず

人々を救い続けることを明かされる。「たとえ生涯悪をつくり続けても、阿

弥陀仏の本願を信じれば、浄土に往生しこの上ないさとりを開く」と述べ

られた。

善導大師

阿弥陀さまは、善悪すべての人々を哀れみ、光明と名号とのほたらきによってお救いくださる。

本願の救いを慶ぶ心がおこったものは、韋提希夫人と同じく三忍を得て、浄土に往生すればただちにさとりを開く。

源信和尚

本願を信じて念仏する信心深きもの（専修）は真実の報土に、様々な行を修める信心浅きもの（雑修）は化土に生まれる。

阿弥陀さまの光明は、わたしを摂め取って護り続け、決して見捨てることはない。

源空聖人

阿弥陀さまは、あらゆるものを救うために、選びに選び抜いて本願をおこしくださいました。本願を疑えば迷いの世界にとどまり、本願を素直に受け入れれば速やかにさとりの世界に入る。

6 親鸞聖人のおすすめ

あなたがたも、この高僧方がお示し下さった教えを、仰いで信じるがよい。

93	善導	独明	正意	94	矜哀	定散	与逆	95	光明	名号	顕因	96	開入	本願	大智	97	行者	正受	金剛	98	慶喜	一念	相應	99	与韋	提等	獲三	100	即証	法性	之常	101	源信	広開	一代	102	偏帰	安養	勸一	103	専雑	執心	判浅	104	報化	二土	正弁	105	極重	悪人	唯称	106	我亦	在彼	撰取	107	煩惱	障眼	雖不	108	大悲	無倦	常照	109	本師	源空	明仏	110	憐愍	愍善	悪凡	111	真宗	教証	興片	112	選択	本願	弘悪	113	還来	生死	輪転	114	決以	疑情	為所	115	速入	寂靜	無為	116	必以	信心	為能	117	弘經	大士	宗師	118	拯濟	無辺	極濁	119	道俗	時衆	共同	120	唯可	信斯	高僧
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----

善導大師はただひとり、これまでの誤った説を正して仏の教えの真意を明らかにされた。善悪のすべての人を哀れんで、光明と名号が縁となり因となってお救いくださると示された。

「本願のたいなる智慧の海に入れば、行者は他力の信を回向され、如来の本願にかなうことができたそのときに、韋提希と同じく喜忍・悟忍・信忍の三忍を得て、浄土に往生してただちにさとりを開く」と述べられた。

源信和尚は、釈尊の説かれた教えを広く学ばれて、ひとえに浄土を願ひ、また世のすべての人々にもお勧めになった。

さまざまな行をまじえて修める自力の信心は浅く、化土にしか往生できないが、念仏一つをもつぱら修める他力の信心は深く、報土に往生できると明らかに示された。

「きわめて罪の重い悪人はただ念仏すべきである。わたしもまた阿弥陀仏の光明の中に摂め取られているけれども、煩惱がわたしの眼をさえぎって、見たてまつることができない。しかしながら、阿弥陀仏のたいなる慈悲の光明は、そのようなわたしを見捨てることなく常に照らしていただくさ」と述べられた。

源空聖人は、深く仏の教えをきわめられ、善人も悪人もすべての凡夫を哀れんで、

この国に往生浄土の真実の教えを開いて明らかにされ、選択本願の法を五濁の世にお広めになった。「迷いの世界に輪廻し続けるのは、本願を疑いはからうからである。速やかにさとりの世界に入るには、ただ本願を信じるより他はない」と述べられた。

浄土の教えを広めてくださった祖師方は、教限りない五濁の世の衆生をみなお導きになる。出家のものも在家のものも今の世の人々はみなともに、ただこの高僧方の教えを仰いで信じるがよい。